



大崎市特別栽培米の「ふゆみずたんぼ米」を10月の給食で味わいます

10月25日(金)から10月31日(木)の期間で実施します

大崎市は、江合川と鳴瀬川の清らかな流れが広大で肥沃な「大崎耕土」を潤し、その豊かな大地から多くのブランド米が誕生しています。

学校給食では、年間を通して環境保全米の「ひとめぼれ」を活用していますが、市内で栽培される特別栽培米を味わう機会も設けています。

農家の皆さんは、1年を通じて田んぼの管理を行い、大切にお米を育てていただきました。愛情いっぱい、美味しい大崎のお米を味わいましょう。



1回目!

田尻の環境保全米“ふゆみずたんぼ米”

ふゆみずたんぼ米は、農薬や化学肥料を使わずに育てられたお米です。

渡り鳥や、イトミミズ、メダカなど、たくさんの生き物たちが育んだ豊かな田んぼからの恵を受け、お米が育ちました。



【写真】ふゆみずたんぼ 大崎市

ふゆみずたんぼで活躍する生き物たち

◎渡り鳥

鳥が雑草を食べてくれるため、除草剤を使用しなくてすみます。

また、鳥のフンにはリン酸が多く、田んぼの良質な肥料になっています。

◎イトミミズ

水をはった田んぼでは、イトミミズの仲間がたくさん増えます。イトミミズのフンは細かな土となり、雑草の種を地中に埋めるため、雑草が生えにくくなります。

◎カエル、クモ

カエルやクモの仲間たちは、害虫を食べてくれていて、稲につく虫を減らすことができます。

ふゆみずたんぼの方がカエルたちが多く住んでいます。

代表的な冬の渡り鳥は「マガン」です。警戒心の強いマガンが生活するには、安全な「ねぐら」に加え、えさ場となる広い田んぼが必要です。

ふゆみずたんぼは、パタ崎さんのお友達「マガン」にとっても、住みよい湿地です。



マガンの群れ

◎菌類、微生物

鳥のフンには「藻」が生え、天然の肥料になります。

また、田んぼに残された「わら」は菌類によって分解され、同じように肥料となります。

「食の宝庫」である大崎市を支えているのは、農家や生産者のみなさんです。給食も、たくさんの方々のおかげで食べることができます。周りの方々への感謝の気持ちを持ち、おいしくいただきます。

発行元

大崎市教育委員会
教育総務課